

令和6年9月17日

9月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では8/24～26の局地的な豪雨により搬出路や作業道が流され、一部復旧に時間を要する箇所もある。9月の出材は間伐主体で少な目で推移する見込み。スギ材は虫害の影響で3.0m柱材、4.0m中目材共に値下がり傾向、特に40cm上は引き合い弱く売りづらい。ヒノキ材は3.0m、4.0m共に虫害材は値を下げているが、影響のない材は強保合。高温多湿のため例年に比べ虫害が深刻で今後の価格への影響が危惧される。

群馬県では台風の影響は少なく、原木集荷は順調であるが、虫害材が多い。工場の操業は通常の70%程度だが、十分間に合っている。9月に入って多少の引き合いは出て来たが単価は厳しい。引き合いは側製品が多く、芯材製品が少ないため製材しづらい状況。在庫は全ての製品で多いが、通常80%まで減少した。

2. 米材

7月の米国住宅着工数は124万戸(年率換算)で前月比6.8%減、前年同月比では16.0%の大幅減となった。一戸建てが85万戸と不振。北米製材品市況は製材工場の減産効果により7月半ばに底を打ち反転したが、9月第1週に横ばいとなった。工場の採算ラインの\$400/MBF手前の\$398で足踏み状態にある。カナダBC州では森林火災警戒期間は終了。米国西岸のワシントン州、オレゴン州では依然森林火災は活発であるが、9月には森林火災警戒期間は終了する見込み。米国、カナダの原木港頭在庫は問題のない水準である。米マツIS級並の9月積み対日輸出価格は未確認情報ながら前月比横ばいの\$940/千SCRで決着した模様。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(9/4)は\$398/MBF、8月頭に比べ7.9%の上昇。

7月原木入荷は110千 m^3 で何とか10万 m^3 を維持、1～7月累計では898千 m^3 (前年同期比18.3%減)。出荷は127千 m^3 で前月比減少、1～7月累計では935千 m^3 (同11.1%減)。在庫は161千 m^3 、在庫率は1.23ヵ月。東京木材埠頭の7月製品入荷は7千 m^3 (前月比35.3%減)、出荷は11千 m^3 (同27.5%減)、在庫は41千 m^3 (同7.1%減)。国内最大手の製材メーカーは米マツ平角製品の一部サイズを9月納品分より値下げした。

3. 欧州材

第3・四半期(7~9月積み) 交渉は難航し、日本側からの発注はかなり減った模様であるが、欧州サプライヤーは売り焦っていない。日本向けの依存度を下げており、日本側の価格下落に合わせるつもりはない態度で、円高進行分ユーロ価格を上げてきている。産地ではインフレで原木、製材コストが高止まりしているのが背景にある。間柱類は東京木材埠頭の在庫が一気に増え、市場は一気に冷え込んだ。各社在庫減らしに奔走し、コストを大きく下回る売値オファーも散見される。先物オファーは産地ユーロ価格値上げにより円高進行でもそれ程下がらない。日本側は7月以降新規買付を殆どしていない。集成柱・梁の第4・四半期(10~12月積み) 交渉がまもなく始まるが、現地ユーロ価格は上げ基調で長期戦になる模様。東京港の7月入荷は遅れていた契約残が一気に入荷し29千 m^3 と前月比大幅増、8、9月も高水準の入荷が続く見込み。出荷は19千 m^3 と入荷の割に増えない。在庫は52千 m^3 と一気に膨らんだ。8月は60千 m^3 を超えることは確実なようだ。

4. 北洋材

産地での夏伐採は低調である。中国からの引き合いは依然低調。中国の銀行のロシア向けの送金忌避は続いている。ウズベキスタン等向けの低グレード品の引き合いは堅調である。アカマツ原板のオファー数量は少ない。アカマツ完成品の価格は\$600/ m^3 が標準でシッパーは強気姿勢を崩していない。円高を背景に値上げ唱えもある。ロシア材の独歩高に警戒感はあるが、10万円台半ば以上が定着。一部で在庫過多とも。国内北洋材工場では原板調達は非常に厳しい状況が続いている。現地挽き完成品の再仕分けが恒常化している。8月の製品入荷(東京+川崎)は産地の生産意欲の減退やコンテナ出荷不調で11千 m^3 と増えない。出荷は9千 m^3 と過去一番の低さである。在庫は25千 m^3 で9月も同水準が予想される。

5. 合板

合板用原木の入荷は順調だが、台風10号の影響で今後の出材に影響が出そうである。大手合板メーカーから8月新規受注分より値上げの表明があったが、先行き不透明感から値上げは通らず値下げに転じた。7月の合板生産量は20.3万 m^3 。うち針葉樹構造用合板の生産量は18.3万 m^3 、出荷量は19.1万 m^3 で在庫量は16.0万 m^3 で前月より7千 m^3 減少となった。輸入合板の入荷が増加傾向にあり、流通在庫は増加しており、品薄アイテムは解消される模様。7月の合板輸入量は18.2万 m^3 で前月比108.6%。特にインドネシア産が5.8万

m³と増加し、前月比 107.8%。インドネシアの合板工場では C&F 価格を値上げの方向で調整している。

6. 構造用集成材（国内産）

8月のラミナ入港量は多い。今後需要減により契約量を絞っていく動きになる。第2・四半期契約のラミナ価格（CIF）は€280～290/m³程度でラミナの値上がりにより仕入コストは上昇傾向である。欧州製材メーカーからの入荷は問題ない見込み。国内集成材メーカーの受注は前年に比べ60～70%の水準。荷動きは全国的に停滞気味であるが、原価、運賃の上昇により市況は強含み。7月の構造用集成材の輸入量は小断面 36,913 m³（前年同月比 98.4%増）、中断面 32,624 m³（同 107.8%増）となった。

7. 木材チップ（東海）

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材（C材）の引き合いが強く、高止まり傾向にある。燃料材は建廃の入荷が例年並みになったが、慢性的に不足感が継続している。能登半島地震の震災廃棄物の本格的な処分が開始された。一部大手製紙会社では減産・操短（80～90%）を継続中。バイオマス発電用は旺盛な消費が継続している。チップ工場では針葉材の国産材原木の集荷増の基調は変わらない。広葉材は自然体受け入れ。燃料用はバイオマス発電の使用が旺盛で生産量は高水準で推移している。

8. 市売問屋

台風10号の影響もあるのか、仕事が全般的に少ない。スギ、ヒノキKD構造材の引き合いが少ない。スギのバタ角は製品市場内に溢れだしている。造作材ではスギの真板が決まった材木店に売れている。米ツガ、スプルースは価格が高いため纏まった荷動きはない。15号地の荷物が満杯とのことで荷動きが悪く、プレカット工場も仕事が少ない模様である。

9. 小売

住宅需要に活発さが見られず、全体的に当用買いが続いている。国産材では構造材の荷動きが相変わらず良くない。ヒノキ土台角は土台樹種では割安感があるが、供給も多く弱保合。スギ柱角は8月に入り、プレカット向けの出荷増により幾分忙しくなってきた模様だが、品薄や値上げには至っていない。外材製品は入荷量が多いため、構造材に不足感はない。RW集成平角は7月の値上げ後もそれなりの引き合いはあるが、WW集成柱は引き合いも少なく保合となっている。造作材では役物の需要は伸び悩んでいるが、店舗関係や保育園などの非住宅物件、公共建築物の内装やデッキ材にムク材の使用が増えている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和6年9月17日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	↘	→	↘
北洋材	製材品	→	→	→

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

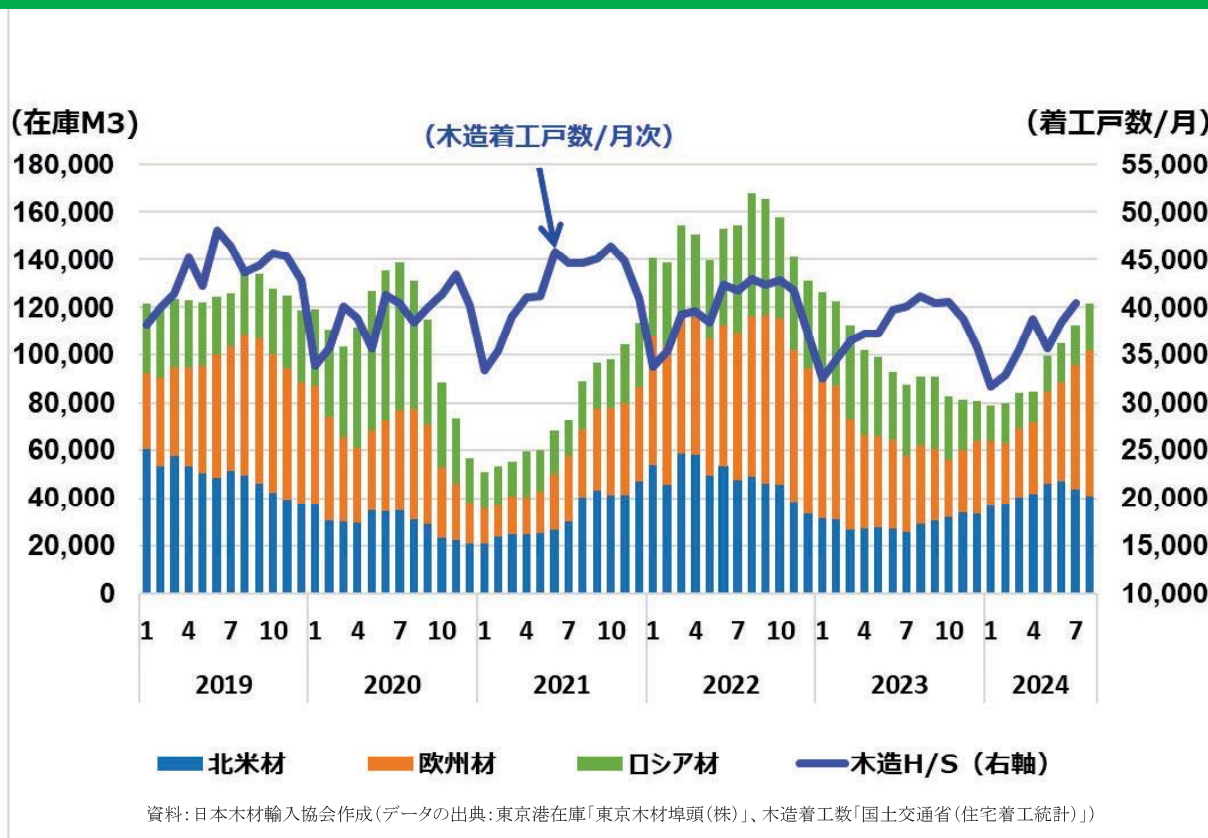
3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↘
			スギ中丸太(3.65m)2等	↘
			ヒノキ柱材(3m)2等	→
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
	ヒノキ土台角(KD)10.5×10.5×4m 特等	→		
ヒノキ土台角(KD)12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・間屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→			
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗			
欧州材	製材品	東京・間屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド’ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
			” 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	↘
北洋材	製材品	北陸・オントラ	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	→
		京浜・オントラ	アカマツ(KD) 30×40上級	→
			アカマツ(KD) 24×28 積木	→
構造用 集成材	国内産	東京・間屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド’ 集成柱 JAS 5プライ	→
			レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	↗
	欧州産		スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
			ホワイトウッド集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↘
レッドウッド集成梁 JAS105×150~360×3.985	↘			
合板	国産	東京・間屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→

注)令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加

参考図表 1

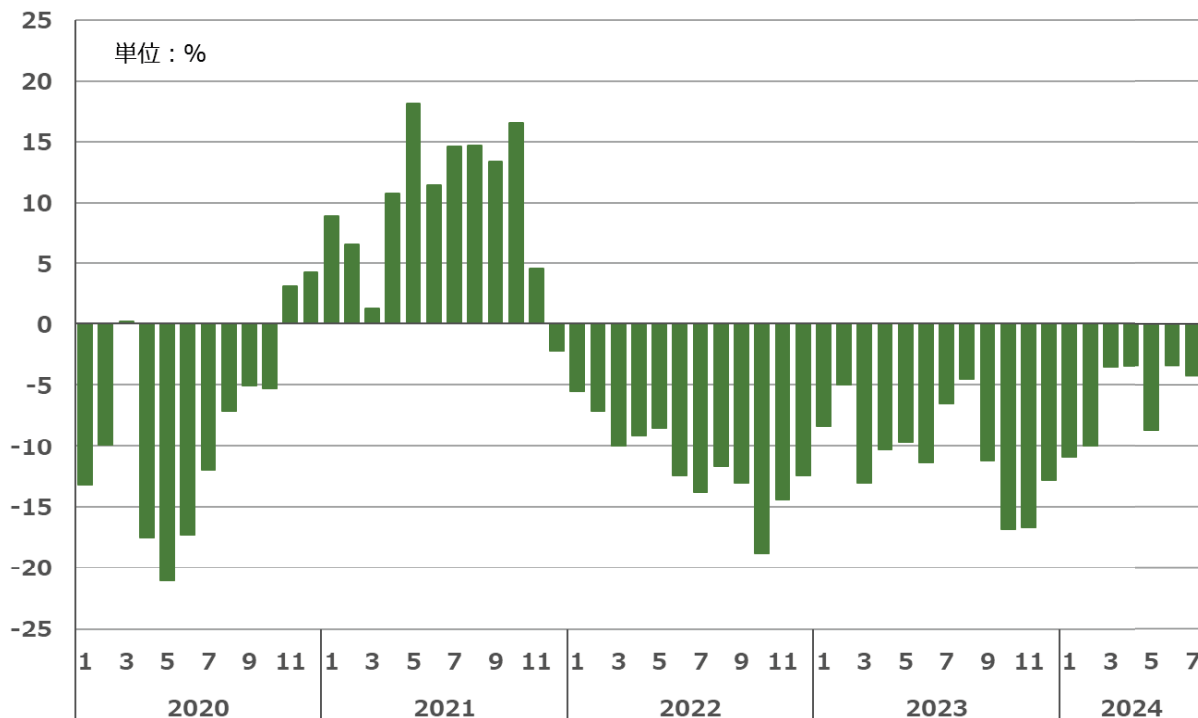
「東京港製材品在庫」と「木造着工数」の推移 2019～24年



参考図表 2

木造持家住宅着工戸数の対前年比の推移

住宅着工戸数のうち、国産材の使用比率が比較的高い「木造持家」着工戸数についての、対前年比率。

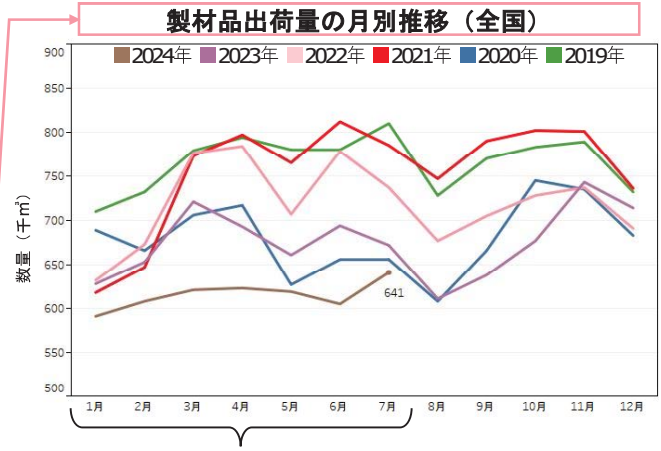
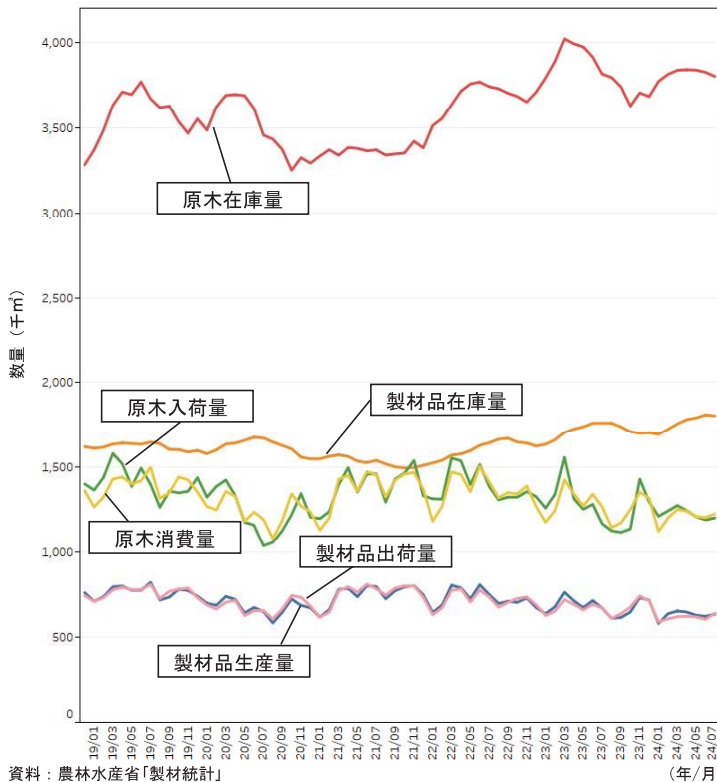


資料：国土交通省「住宅着工統計」

参考図表 3

工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向 製材（全国）

- 2024年1～7月の原木の入荷量は8,591千m³（2019年比84%）。
- 同様に製材品の出荷量は4,308千m³（2019年比80%）。

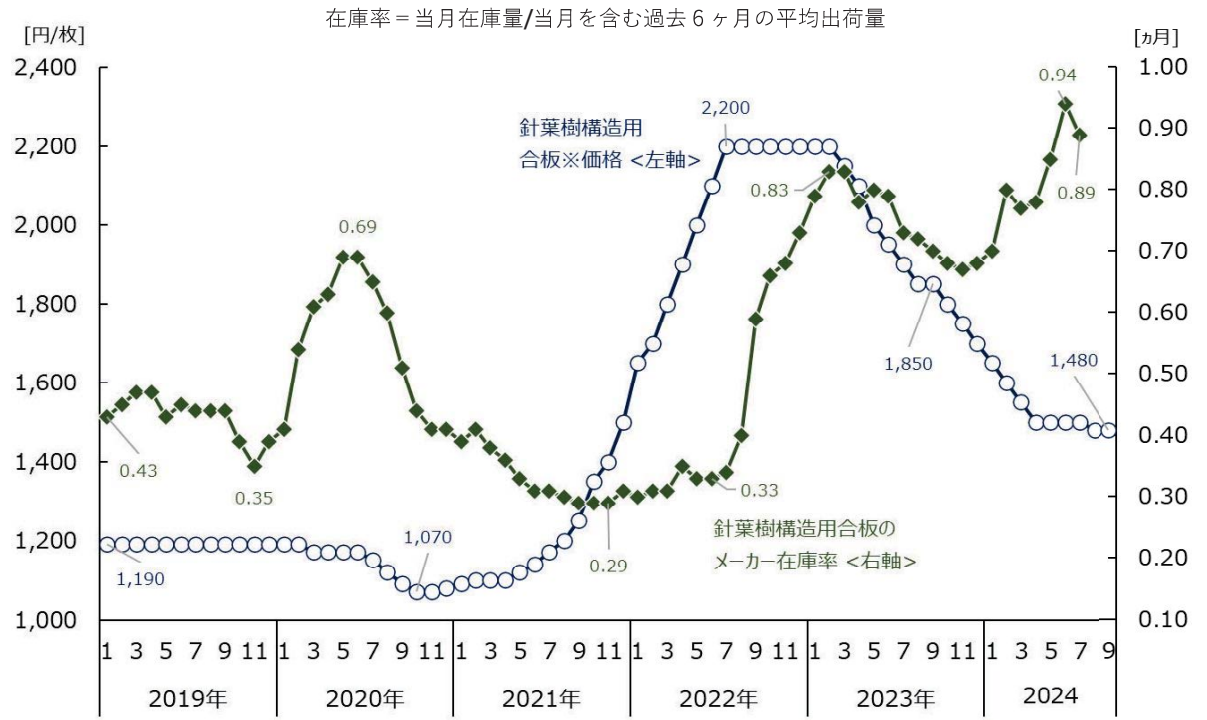


	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1～7月原木入荷量合計(千m ³)	10,196	8,857	9,617	10,028	9,189	8,591
2019年との比較*	-	87%	94%	98%	90%	84%
1～7月製材品出荷量合計(千m ³)	5,385	4,717	5,197	5,087	4,722	4,308
2019年との比較*	-	88%	97%	94%	88%	80%

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

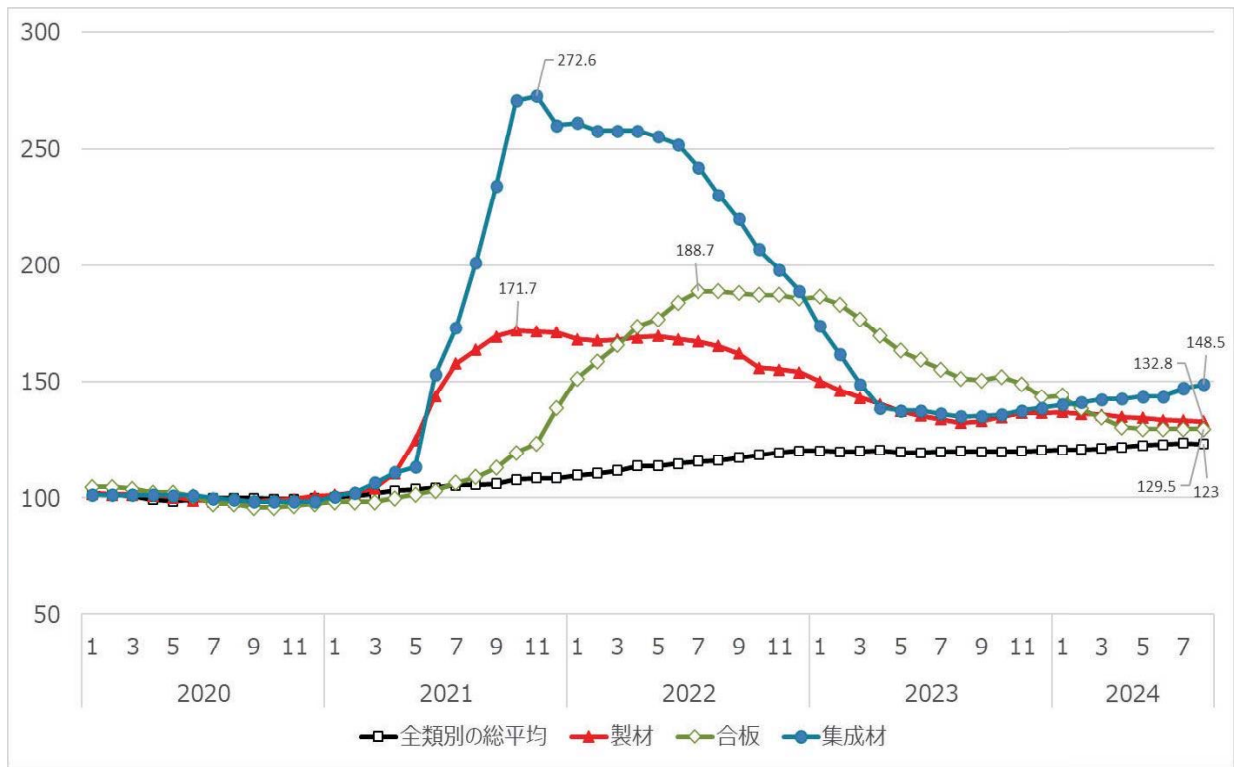
参考図表 4

針葉樹構造用合板価格と合板メーカー在庫率の推移



資料：農林水産省「合板統計」、日本木材総合情報センター「市況検討委員会資料」

国内企業物価指数の推移（2000年平均 = 100）

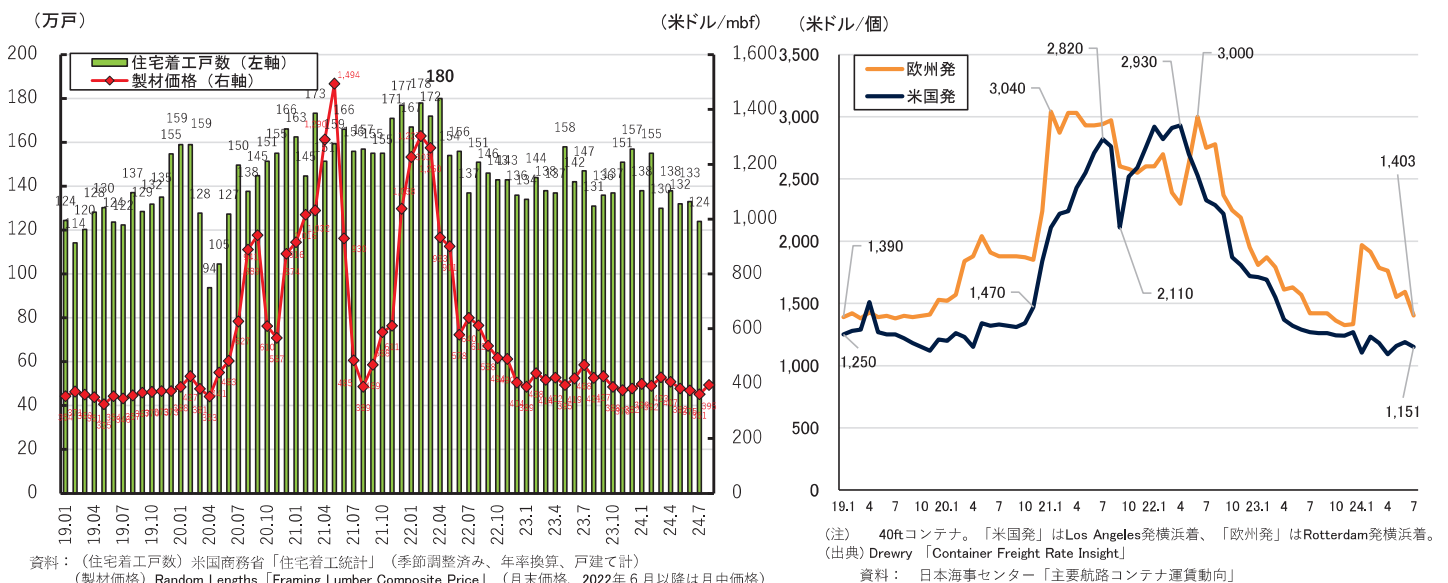


資料：日本銀行「企業物価指数」

米国における木材価格の動向等

資料：木材輸入の状況について（林野庁木材貿易対策室）

- 米国の住宅着工戸数（戸建て計）は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落。その後回復し、2022年5月からは概ね130～150万台で推移。2024年7月は前月比▲7%減の約124万戸。
- 北米の木材価格は、2020年夏頃から大幅な変動を繰り返し、2021年5月には1,494ドル/mbf、2022年2月には1,303ドル/mbfを記録した後、2023年以降は概ね400ドル/mbf前後で推移。2024年8月は395ドル/mbf（前月比+9%増）。
- 日本向けコンテナ運賃は、欧州発、米国発ともに一時期高騰したものの、2023年末時点で概ね元の水準まで下落。しかしながら、2024年1月には、紅海でのフシ派攻撃によるサプライチェーンの混乱の影響で欧州発が高騰。



米国における住宅着工戸数と製材価格の推移

日本向けコンテナ運賃の推移

資料：（住宅着工戸数）米国商務省「住宅着工統計」（季節調整済み、年率換算、戸建て計）
（製材価格）Random Lengths「Framing Lumber Composite Price」（月末価格、2022年6月以降は月中価格）

（注）40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横濱着、「欧州発」はRotterdam発横濱着。
（出典）Drewry「Container Freight Rate Insight」
資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」